

2020年

即解ゼミ体験授業（担当.. 矢口祐子）

やぐちゆうこ

体験★古文

〈大学入学共通テストの特徴〉

複数文章が出題されたり、生徒の会話問題など、変更部分もある

⇔ だが！

古文の読み方が変わる訳ではなく、これまでと同様の力が必要

← ということは

ある程度の長さの文章を読み内容を把握できるようにならないといけない

← するためには

主語・目的語・述語を意識してざっくり読むことが必要

+ 加えて

解答にかかわる一文を訳せるようにならないといけない

← するためには

単語・文法（用言・助動詞・敬語・助詞）を使いこなせるようにならないといけない

次の文章は中世の物語の一節で、宮の三位の中将が、たまたま故大納言の姫君を垣間見する部分である。これを読んで、あとの設問に答えよ。(なお、本文の一部を省略した。)

宮の三位の中将と聞こゆる人おはしけり。花の色・月の光にも、この世はうきものとのみ思ひ給ひて、α夜もすがらいつもあくがれ給ひて、よしある所に入りて、垣間見給へるに、思はず(注一)箏ことうの琴をゆるらかに(注二)盤ばん渉調しやうてうにひき鳴らすを聞き給ふに、おしなべての爪音にはあらず。いかなる人ならんとゆかしくて、ものの隈に立ち隠れて見給へば、端近くながめけるとおぼえて、御簾なども少し巻き上げて、いとをかしげなる若き人、二三人ばかり見ゆるに、いづれか琴ひく人と見給へども、この中には見えて、奥の方に聞こゆ。月隈なくさし入りて、障りなく見ゆるに、わづかに十四五にやと見えて、紛ふべくもなくいつくしげにて、月にもてはやされたる髪のかかり、手つきなどは、世の常の人とは見えず。

顔は定かに見えねども、空をつくづくとまぼりて、いみじうもの思へるさまなり。らうたげに気高く見えたり。誰ばかりかこれほどならんと、あやなく御心もとどまりて、出て給ふ心地もし給はねば、なほ立ち聞き給へば、御前なる人々、いとあれなる物語して、故大納言殿の御ことなど語り出でて、「ーおはしまさましかば、かく心細きさまならましや」「今はいかなる方にも定まり給ひなんものを」などとうち泣きなどするに、いとど2もよほされて、姫君もいみじくbながめ入りて、

もの思ふ涙に空はかきくれて我から月もおぼろにぞ見る

とうちながむともなきさま、げにたぐひあらじと見えたり。

『あきぎり』

(注) 1 箏の琴—弦が十三本ある琴。

2 盤渉調—雅楽の基本的な旋法の一つ。

問1 二重傍線部 a・b の意味として最も適切なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つ選んで、その番号を記せ。

a 夜もすがら

- ① 夜以外は ② 夜通し ③ 夜がふけてから ④ 夜になるとすぐ ⑤ 夜遅く

b ながめ

- ① 外のほうをのぞいて ② 秋の長雨が降り続いて ③ 和歌を詠んで
④ 物思いにふけて ⑤ 見つめて

問2 傍線部1の主語を記せ。

問3 傍線部2について、何が「もよおされ」たのか。本文中の漢字一字で答えよ。

問1	a	b	問2	問3